第19回（令和6年度第4回）タウンミーティングの概要

１　団体名　弥藤吾地域連絡会
　　代表者　会長　白石　隆

２　日程等
（１）開催日　令和6年7月24日（水）
（２）会　場　弥下自治会館
（３）テーマ　弥藤吾の今後について

３　意見交換の概要
※ [　　] 内はミーティング終了後、所管課で補足したものです。

市民　高齢者に対する施策等について 3 点お聞きします。一つ目は運転免許証を返納した人に対する制度について。二つ目は、高齢者の一人世帯に対する支援策について。三つ目は、高齢化が進み自治会役員のなり手がなく活動もままならなくなっていることに対する市の考え方について教えてください。

市長　免許返納者に対しては、運転経歴証明書等を提示していただくと熊谷市のゆうゆうバスが無料でご利用いただけます。また、朝日自動車と国際十王交通が販売する高齢者向け定期券に対し、市で三分の一を補助しています。1年間3万6,000円が2万4,000円、半年間2万1,000円が1万4,000円で購入することができます。

　単身高齢者世帯に対しては、軽度の生活援助事業、あんしんコール事業、配食サービス事業、民生委員による単身高齢者の見守りなどがあります。

　また、今熊谷市では、スマホのLINEアプリを使ってクマポというサービスを提供しています。例えば車で買い物の手伝いをしてもらって、お金を払うと白タク行為になりますが、クマポを使ってお返しをしてもらいます。市では、ポイントがたまったときにお渡しできる商品を取り揃えています。

　将来的には、ライドシェアについても検討したいと考えています。

　自治会役員のなり手不足や自治会加入率の低下などの話は聞いています。行政の最小単位は自治会だと思っています。自治会がなくなれば、市としても情報を地域の方に伝えることができなくなります。市から自治会にお願いしていることの簡素化も今後検討したいと考えています。

市民　妻沼の手づくり市は、年に2回開催され、大勢のお客さんが来ています。回数を増やして、もっと活性化するような形にすれば妻沼地区が盛り上がる

と思うので、PR などお手伝いいただければありがたいと思います。

「小さないい旅」というのがありますが、手づくり市でもやってほしい。人の動きがうんと変わってくると思います。

（商業観光課）現在は市報等で周知していますが、今後は市ＨＰなどでもＰＲいたします。また、「小さないい旅」の企画は、熊谷市観光協会が行っておりますが、同様の企画または、手づくり市と絡めた新たなツアーの実施など今後検討します。

市民　まちなかに、車道と歩道の間に高い境界を作りましたよね。車の流れはよくなるけれど、駐車できないのでお店が困ります。歩道に少し乗り上げてでも車を止めて買い物ができる方が、まちの発展には結びつきますよ。

都市整備部長　県道太田熊谷線は熊谷県土整備事務所が工事をしていますが、歩車道を分離し、歩行者の安全対策を目的として、縁石を少し高くしています。

市民　妻沼地区の道路計画について年代八ツ口線と利根川新橋についてお聞きしたいと思います。

市長　年代八ツ口線は、妻沼町時代からの都市計画を引き継いでいます。必要な買収予算をしっかりと確保しながら、用地取得を進めていきます。

市民　道路を諦めて、宅地開発の方がいいですよ。

市長　いや、私は、妻沼には期待しています。用地はある程度取得しています。残りについても、根気強く交渉していきます。

利根新橋については、今年に入ってドローンでの測量が行われ、地質調査のボーリングも始まっています。令和 7 年度から都市計画決定の手続きを進めていきます。都市計画決定すると橋の位置が決まり、道路用地の確保にも動き出します。

市民　少子化対策は、日本全国共通の課題だと思うのですが、熊谷市としてどういうことをやろうとしているのかお聞きします。

市長　少子化対策というと、子育て支援の形でメニューが出てきます。熊谷市も、児童手当等の支給事業、ひとり親家庭への経済的な支援、こども医療費の助成などのほか、誕生祝い金 3 万円の支給や幼児二人同乗用自転車購入費用補助、それから子育て支援施設の拡充などを行っています。

夫婦が生涯にもうける子どもの数、完結出生児数は長らく 2.2 人前後で安定していましたが、最近は減少傾向となり今 1.9 人です。少子化対策としては、いかに結婚してもらうかということもあると思います。

（企画課）埼玉県が市町村や企業等と共同で運営する公的結婚支援センター「SAITAMA 出会いサポートセンター（通称：恋たま）」に参加しており、熊谷市にお住まいの方の利用

登録料は、参加していない自治体と比較して 5,000 円引きの 11,000 円（登録期間は 2 年間）になります。
　また、埼玉県北部 7 市町と連携して、出会いの場を提供する等結婚支援を行っています。

市民　熊谷市が魅力的になれば、人口が増えて少子化が改善できると思います。商業施設や、医療施設など、全てのサービスが一つの場所で提供されるのが理想だと思うのですが、弥藤吾地区は全部バラバラです。そういう一体型の施設ができると、魅力ある弥藤吾になるのではないかと考えています。

市長　その 1 か所が妻沼に選ばれればいいですけれども、他の地区に選ばれたら大変です。私は、1 か所に大きなものを作るのではなく、それぞれの地域にコンパクトでも、最低限必要なものができることは重要だと思っています。
　それと、たくさんある空き家をうまく活用できないかということです。人を増やそうと思ったら空き家をほっといては駄目です。地域でうまくチェックして、空き家を、空き家でなくしていくことも必要だと思います。

市民　農業後継者不足についてお聞きします。

市長　需要と供給のバランスですから、農業が儲かるようにならなければ、後継者は出てこないと思います。
　今その中で、農地中間管理事業や土地改良事業にも取り組みながら、新しい農業機械の導入の補助であるとか、担い手育成塾というものも開いています。
　この農業機械の導入経費の補助や新規就農者への補助は、決して大きくはないので、この補助金で、新たに農業を始めようという人は出てきてくれないかもしれません。今やってる方たちが続けていく上で、いくらかでも励みになればいいのかなと考えています。
　埼玉県北部の農地は、首都圏への食料供給基地の中心になり、「これ以上農地を減らすな」が県農林部の合言葉になっています。継続できる農業のために直接農家を支援するように訴えたいと思っています。

市民　最近、企業が農業に参入しているようですが、農家の皆さんはプロなので、プロの力を借りて、企業が何か作るようなことはできませんか。

市長　新たな道の駅が令和 10 年にできます。この道の駅については、ＪＡにも携わってもらいながら、地元農産物の販売を考えていきたいと思っています。
　企業が農業に参入してきますが、野菜やイチゴなど、儲かるものに行っちゃうんです。今守らなければならないのは米です。米を作る農家を食える農家にするためには、国を中心に補助金をつけて農業を守るのが近道だと思います。

市民　安全安心のまちづくりについて、太陽光パネルや、防犯カメラの活用につ

いてどういう状況なのかお伺いします。

市長　太陽光発電の照明につては、防犯灯はありませんが、公園内の公園灯として 2 基設置しています。また、蓄電して、緊急時に充電ができる照明は 6 灯設置しています。今は、ＬＥＤ化による省電力・長寿命化を優先しています。

防犯カメラについては、ラグビーワールドカップを契機に、平成 29 年度から本格的に設置しており、現在市内に 132 台の防犯カメラがあります。

市民　妻沼中央公園にトイレを作ってほしいのですが。

都市整備部長　既に地元自治会と話をしています。設置後の管理を自治会とサポーター契約してお願いしていますが、管理ができないということでした。

市民　熊谷市特有の暑さに対する対策や避難場所についてお聞きします。

市長　妻沼地区では妻沼行政センターと妻沼中央公民館をクーリングシェルターに指定しています。まちなかでは市役所などの公共施設のほか、ベルクやウェルシアなどの民間施設も指定しています。ベルクでは、私の声で熱中症予防等の注意喚起をしています。

市民　地震対策についてお聞きします。

市長　木造住宅の耐震診断については、補助率 2 分の 1、上限 5 万円の、耐震改修については、補助率 3 分の 1、上限 40 万円の補助金を出しています。

それから、ブロック塀等撤去・生け垣設置推奨補助金があります。

市民　小学校の統廃合後の活用計画についてお聞きします。

市長　男沼小学校、太田小学校、妻沼南小学校が統合され、新たに妻沼西小学校が設置されます。閉校後の跡地の利活用については跡地等利活用検討委員会を開催して検討していきたいと考えています。

体育館は、地域の方に利用していただけると思うのですが、学校施設を、貸館等で使うとなると、管理がかなり手間のかかる作業になります。まずは行政の中でどこか使うところがあるか検討した後に、民間にも広く声を聞いていきたいと思っています。プールについては、除却も含めて考えたいと思います。学校は駐車場が少ないのでプール跡地が活用できればいいと思います。

市民　南団地入口の橋付近は雑草が繁茂し、川との境も判然としません。

市長　除草についてはこれから実施をさせていただきたいと思います。

川との境については、路肩注意杭を設置することも考えられますが、農耕車等の通行に支障が出る可能性がありますので、改めて地元の皆さんで考えをま

とめて、ご相談いただきたいと思います。

市民　ゴミ収集ネットを、現在のブルーからカラス対策に効果があると言われている黄色に変更できませんか。

市長　カラスは紫外線を認識し、紫外線がないところではものをうまく識別できないそうです。以前、紫外線をカットする黄色いごみ袋を使ったところカラスは中身が見えず、カラス対策に効果があるとマスコミで取り上げられましたが、黄色という色だけが独り歩きしたようです。カラス対策に効果があるという根拠は見当たらないそうです。

市民　自治会で実施の下水清掃時の土のう袋を少し多めにほしいのですが。

市長　自治会の側溝清掃等で発生した汚泥は土のう袋に入れてもらい、維持課で回収しています。その際地元の負担を少しでも軽減できるように回収した分と同数の土のう袋を配布しています。余計に持ってくることも可能ですので申し付けてください。

市民　中口交差点（妻沼南小学校脇）では、ここで畑をしている人の話では年に1回くらい交通事故があるそうです。どちらにも一時停止がありません。

市長　薄くなった白線は、市で順次きれいに元に戻します。道路標識は、市が勝手に設置できませんので、引き続き、警察と協議をさせていただきたいと思います。

（安心安全課）一時停止の規制について警察へ検討依頼をしましたが、見通しが悪くないため設置は困難というのが現時点での回答です。

市民　暑い時期になると熊谷がテレビに出ますが、とても誇らしく、うれしく思います。もっと暑さを楽しんでアピールしたり、「暑いけど熊谷に来なよ。」ぐらいなことをしてほしいなって思います。

　続けてもう1点。江南北小で下校途中の交通事故がありました。信号を見て横断歩道を渡っていたにもかかわらず事故は防げませんでした。江南ではヘルメットを被っていなかったそうです。小中学生のヘルメットに補助金を出すよう検討いただければと思います。

市長　おっしゃるとおり「あついぞ！」で、全国に熊谷の名前はとどろき渡りました。埼玉県の県庁所在地を知らなくても熊谷は知っています。国交省から来ている副市長もこれを使いたいということで、徐々に復活させています。

　清水寺で発表される「今年の漢字」をご存知だと思いますが、2010年に「暑」がその年の漢字に選ばれたそうです。それを熊谷で飾ることになり、8月2日から、まず八木橋で大温度計とともにデビューしてもらいます。

お子さんに対するヘルメットについては、通学用のヘルメットがいいのか自転車に乗る子のためのヘルメットがいいのかなど考えています。

（学校教育課）　子ども用のヘルメットについては、既に全員着用の学校と着用しない習慣の学校があり、また、熱中症被害も心配される中ですので、市で統一的に着用させるための補助金を出すことは難しいと考えます。これからも、各学校の校区の交通事業や暑さなどの実態に応じた着用促進を働きかけます。